

課題名	ミカンハモグリガのミカントップ乳剤による防除効果												
成果の要約	ミカントップ乳剤(ジメトエート40%、フェンバレート10%)の4000倍の7~10日間隔散布は夏芽の被害葉発生を防止できる。												
成績概要	防除効果(吉田ネーブル 果試 S57)												
	供試薬剤	散 布 月 日										散 布 回 数	
		7・8	7・15	7・19	7・26	7・30	8・2	8・4	8・9	8・13	8・16	8・19	
	① ミカントップ	○	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	5
	② アクテリック	○	○	○	○	-	○	-	○	-	○	-	7
	③ カルホス												
	④ (カルホス タカマシンス)												
	5 硫酸ニコチン	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-	○	9
	供 試 薬 剤	被 害 程 度 (%)				被 害 葉 率	被 害 度						
		-	±	+	≡								
	① ミカントップ乳剤4000倍	92.8	3.3	3.4	0.5	7.3%	2.9						
	② アクテリック乳剤500	77.2	7.5	9.4	5.9	22.8	11.8						
	③ カルホス乳剤1000	71.0	9.4	13.4	6.2	29.0	15.8						
	④ (カルホス乳剤1000 タカマシンス乳剤400)	81.8	7.8	8.8	1.6	18.3	7.4						
	5 硫酸ニコチン乳剤600	86.9	7.5	3.9	0.6	13.1	4.5						
	6 無 処 理	1.0	2.1	15.0	81.9	99.0	89.8						

防除効果(宮内イヨカン 果試 S57)

供試薬剤	散 布 月 日											散 布 回 数
	7・7	7・15	7・19	7・26	7・30	8・2	8・4	8・9	8・13	8・16	8・19	
① ミカントップ4000倍 (7日間隔)	○	○	○	○	-	○	-	○	-	○	-	7
② " " (10日間隔)	○	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	5
③ ミカントップ2000倍 (14日間隔)	○	-	○	-	-	○	-	-	-	○	-	4
4 硫酸ニコチン600倍 (5日間隔)	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-	○	9

供試薬剤	被 害 程 度 (%)				被害葉率	被 害 度
	-	±	+	≠		
① ミカントップ乳剤4000倍 7日間隔	99.95	0.05	0	0	0.05%	0.01
② ミカントップ乳剤4000 10日間隔	98.5	1.0	0.5	0	1.5	0.4
③ ミカントップ乳剤2000 14日間隔	90.2	2.2	4.5	3.1	9.8	5.8
4 硫酸ニコチン乳剤600 5日間隔	85.2	6.0	6.6	2.2	14.8	6.5
5 無 処 理	3.0	1.5	2.0	93.5	97.0	95.0

- 普及上の留意点
1. 魚毒性が強い(C類)ので散布された薬剤、あるいは残液、洗滌液等が水田、河川、湖沼、海域及び養魚池に飛散又は流入する恐れがある場所では使用しない。
 2. 蚕毒性が強いので、養蚕地帯での使用は避ける。
 3. 薬害は樹勢が弱い場合や、春葉伸長期の散布、キシウミカン、ダイダイ、メキシカンライム、シトロン系カンキツへの散布により発生することがあるのでこれらには使用しない。
 4. ボルドー液などのアルカリ性薬剤とは混用を避ける。